

埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

大切な税金

寄居町立寄居中学校 一年 真下 恵理子

私が所属している吹奏楽部は、夏休みも毎日のように活動する。大会に向けて一日練習も多いので、そのような日には、母にいつもお弁当を作ってもらう。母とともに改めて給食のありがたみを実感したが、給食について驚いた事があった。それは、毎月親に支払ってもらっている給食費は物資購入のためにあてられ、人件費、高熱水費、配送などの管理費用は、全て町で負担してくれているという事だ。

私は今まで、日頃生活している中で、「どこで税金のお世話になっているか」「どれだけ税金が役立っているか」などという事は考えたこともなく、無関心だった。でも、この給食の費用をきっかけに、身の回りを見てみると、私は様々な事で税金に助けられて生きてきたという事に気付いた。

生まれた時から、乳児医療費や予防接種・健康診断に始まり、教科書の無償配布、指導して下さる先生方の存在、部活動の備品、また、日々当たり前の様に出しているゴミの処理、自転車で快適に走れる道路の整備、安心していられる警察や消防等々。現在安全で何の心配もなく暮らしている生活は、皆、税金で支えられている。

世界の国々には、飢餓や伝染病のために沢山の子供が命を落としたり、教育を受けることも大変な国もあると言う。日本だって、税制度が無く、全て自分たちで負担しなければならぬとしたら、どうだろうか。私の現在の生活は保障されないと思う。

私達中学生はまだ、時々買い物の際に消費税を支払うくらいで直接的に納税に関わってはいない。でも、だからこそ、現在、税金について正しい知識を持ち、税金のありがたさを理解すると共に、その税金を無駄にはしてはいけないという気持ちを育てていかなければと思った。

現代社会はただでさえ、少子化高齢化が進み、社会を支えるべき人が減っているのに、最近「ニート」と呼ばれる若者が増え、納税者が減る傾向にあるらしい。また、収入を得ているにもかかわらず、納税を滞納する人も多いと聞いたことがある。

このままでは、私達が社会を支える世代になった時、どうになってしまうのか。今まで一生懸命世の中を支えてくれたお年寄りたちを守っていけないばかりか、次の世代の安全で豊かな未来を残していく事はできないと思う。だから、私達は成人になって所得を得た時、納税する意味をきちんと理解し、義務を果たして税金に対する意識を高めていきたい。そして誰もが税金を払う事に戸惑う事がない様、税金の還元の仕方や使い方について、一人一人が正しい判断をする力を養っていく必要があると思う。これからも、ずっと先も、安心して生活できる国であればいいと思う。